

べ 議会だより つかい

第112号

2025年2月

地域めぐり懇談会／中春別ふれあいセンター

特集

あなたの声が別海町を動かす！ 2

青少年プラザ利活用推進事業の再構築に期待！ 4

産後ケア 無償化がスタート 5

災害時の上下水道 対策・対応は万全か 6

委員会構成の方向性を決定／令和5年度各会計決算を認定 ... 7

一般質問(田村・中村・伊勢・高橋・宮越・市川の6議員) 8

議長会研修報告／別海町総合計画の変更を議決 11

シリーズ 町民に聞きました

地域めぐり懇談会に

大勢の参加ありがとうございました ... 12



北海道別海町議会

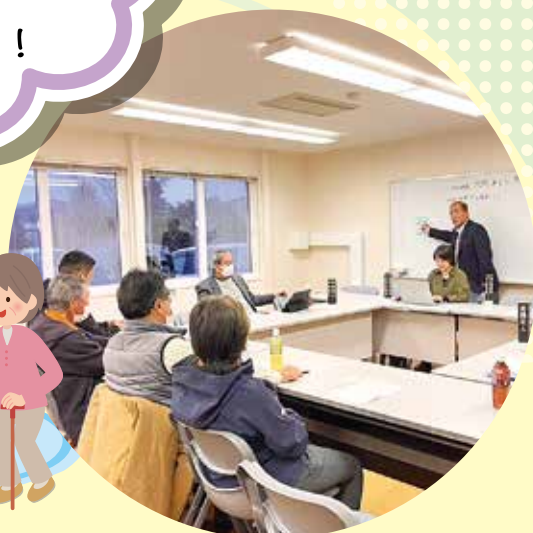
11月25日/27日開催！

地域めぐり懇談会

たくさんのご意見
ありがとうございました！



地域交通



- ☒ 買い物だけでなく友人宅にも遊びに行きたい！
ほかの地域の老人クラブにも出かけたい！
- ☒ 各地域の路線バスだけでなく、市街地も
巡回バスなどを導入してほしい！
- ☒ タクシーを呼んでも2時間待ち！どうにかして！
- ☒ デマンド交通のおかげで外出ができてうれしい！
でも、月2回ではまだまだ足りない！
- ☒ 福祉バスをもっと利用しやすく改善してほしい！
- ☒ 交通手段がなければ、別海町に住み続けられない



別海町交流館

- ☒ 宿泊もレストランも再開してほしい！
- ☒ 道の駅の機能をもたせて、別海町の物産品を購入
できる施設にしてほしい
- ☒ 多少赤字になっても町で運営してほしい！今までの
経営をしっかりと分析してほしい
- ☒ 交流館前の傾斜地を子どもが遊べる場所にしてほしい！

“あなたの声が別海町を動かす！”

その他の意見は
こちらから



尾岱沼

中春別

別海
市街

西春別

病院・診療所

- ✓ 近くの診療所で診てもらいたい！
- ✓ オンライン診療は便利！別海病院でも！
- ✓ 医療を目指す人に長い戦略で手厚く支援をしてほしい！
- ✓ 病児保育をほかの地域にも拡充して！使い勝手を改善してほしい！
- ✓ 別海病院の予防接種をもっと柔軟な対応にしてほしい！
- ✓ 小児科はネット予約、LINE 呼び出しが主流
広い別海町もぜひ取り入れて！
- ✓ 別海町で産めないなら通院補助を！

議員の定数 / 報酬

- ✓ 女性議員が少ない！
- ✓ どれだけ活動しているのかわからない
- ✓ 別海町は広いので定数はこのままでもいい！
- ✓ 議員活動量がわかれば報酬が上がっても町民も納得するのでは？

これらのほかにもたくさんのご意見をいただきました。それぞれの地域ならではの課題も聴くことができ、大変勉強になりました。今後の議会活動に活用させていただきます。

広報・広聴常任委員会委員長 田村 秀男

たくさんのご意見ありがとうございました！一つ一つの課題に向き合って議会活動に反映していきます！

広報・広聴常任委員会副委員長 横田 保江

総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 佐藤 初雄 副委員長 田村 秀男 委員 戸田 憲悦・吉田 和行・市川 聖母

青少年プラザ利活用推進事業の再構築に期待！

青少年プラザは、みなくるの付帯施設として位置付けられており、現在、各種講座などの利用、自主学習、小中学生の自由な利用、また各種講演会、催し物などの一般利用もされていますが、十分な活用がされていません。

青少年プラザ利活用推進の具体的な取り組みとして、学校外における学習要望や進学意向を把握し、新たな公共施設の機能の一つとしての学習塾などを検討するため、令和3年7月に小中学校生および高校生の保護者に対してアンケート調査を実施しました。

12月の総務文教常任委員会において、教育委員会から「青少年の居場所づくりに関する基本方針」の一時保留・再検討が報告されました。

「青少年の居場所づくりに関する基本方針」の策定に向けて

青少年プラザ利活用推進事業として、中高生を中心とした利活用検討組織の立ち上げを、令和5年から計画していたが、予定通り進めることができず、先進的事例、国の動向調査にとどまっています。

令和5年12月に、国から「子どもの居場所づくりに関する指針」が示されました。

福祉部局や地域との横断的な連携が求められ、教育委員会だけでなく、町全体での方針整理の必要性が生じています。

そのため、庁内体制を再構築し、令和7年度に再協議を進めるとの内容でした。

まとめ

「青少年の居場所づくりに

向けた町全体での取り組みの方向性、現状の課題を明確にし、青少年の自己実現、社会参加の機会、安心できる居場所づくりの推進を期待します。

行政視察で浦幌町、本別町を視察

10月10～11日の2日間、十勝の浦幌町と本別町へ所管事務調査の補完目的で行政視察へ行ってきました。

浦幌町では学校教育にまで浸透させた「うらほろスタイル」と呼ぶ郷土愛教育・住民による地域活性化の取り組みについての調査を行いました。



本別町議会視察



浦幌町サテライトスペース

本別町では町内循環バス、オンデマンド交通など過疎地における地域交通、移動手段について、調査を行ってきました。

【第3回定例会以降に

取り組んだ主な調査】

- 地域おこし協力隊推進事業
- 第7次別海町総合計画の見直し
- 総合的な防災対策
- 浦幌町、本別町行政視察
- 別海中央地区義務教育学校建設基本構想について
- 青少年の居場所づくりに関する基本方針について

福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・保健生活部・別海病院など 委員長 外山 浩司 副委員長 宮越 正人 委員 中村 忠士・小椋 哲也・高橋眞結美

産後ケア無償化がスタート 産後のママに癒し、心もサポート

産後1年未満の母子に対して、心身のケアと育児サポートを行い、産後も安心して子育てできる支援体制に「産後ケア」があり、本町では今年度から無償化がスタートしました。

本町は、以前から母乳育児に関するケアの希望者が多い状況でした。

しかし近年は、核家族化が進み、心と身体の回復を目的とした「休息」を希望する母親も増えてきました。

その状況から、ケアの充実を目指し、内容の拡大など母子が利用しやすい環境を整備しています。

【利用できる施設】

- 別海町母子健康センター
- 町立別海病院
- 町立中標津病院



産後ケアが行われている母子健康センター

● 助産所マタニティアイ

(釧路町)

● イコロ助産院(釧路市)

※各施設によって、日帰り・宿泊コースのメニュー、利用可能な月齢が異なります。

今年度は、無償化と施設の拡充により、利用者が大幅に増えています。

自殺予防

本町は、全道の中で自殺者が多く、平成21年からの統計では、年平均で4名に達します。

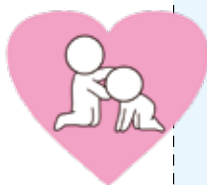
令和6年度は10月までに5名になっています。

町では、札幌医科大学と共同で対策に取り組む一方、第2期の「いのちを支える別海町自殺対策行動計画」を令和5年度に策定し、継続的に対策に取り組んでいます。

その中に、ゲートキーパー※研修会を開催し、受講者は2千名余りに達しています。町民7人に1人の高い割合になっています。

※ゲートキーパー

自殺の危険を示すサインに気づき、声掛け、話を聞くなどの手を差し伸べる人



まとめ

本町の妊産婦さんの中には、町外出身の方も多くいます。

産後間もない母親にとって、近くに相談できる身内がいない場合もあり、乳房トラブルや乳児の発育状況の不安などがあります。

また、母親が主に24時間付き添うての育児生活になります。

このような中「話を聞いてほしい」「授乳以外は乳児を助産師に預け、少しくつろぎたい」「ゆっくり入浴したい」などの要望があります。

今後の展望として、今以上に利用しやすい施設や満足が得られるサービス体制の整備が、より求められます。

また、自殺予防対策での重点課題に高齢者が挙げられています。

別海町寿大学でのゲートキーパー研修会をはじめ、今まで実施されていなかった西・東地区での自殺対策の研修会が望まれます。

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 今西 和雄 副委員長 横田 保江 委員 松原 政勝・貞宗 拓雄・伊勢 徹

災害時の上下水道 対策・対応は万全か

全国的に年々災害の規模が大きくなり、甚大な被害をもたらしています。

特に、我が町を含めた地域は、近い将来、大きな確率で大地震が予知されています。

さらに半年以上厳寒期を抱える地域でもあり、ライフライン（特に生活用水・酪農用水）の確保が最重点課題と認識し、調査しました。

水道の災害対応

給水・復旧の迅速な応急対策実行に当たり、各種計画のマニュアルを作成し、あらゆることを想定し備えています。

●災害時の支援体制

日本水道協会の災害時相互応援による支援体制。

応急給水活動・復旧作業、技術的支援、物資・資機材提供

●災害時の協定

①日本水道協会道東地区協議会（相互応援協定）

②別海町建設業協会（応急措置協定）

③町内指定給水装置工事業者（災害復旧協力協定）

●災害に備えての訓練

①災害時相互応援訓練（中標津町）

②町内各地域防災訓練時に給水訓練

（上風連・中西別・中春別）
③応急給水訓練（上下水道課単独）

●施設の耐震化

町内全域の水道管理施設距離は1128⁺で、現在耐震適合管を使用している水道管は116⁺。残りの水道管についても離脱防止対策として、継手箇所強化を積極的に行っています。

現在、国営かんがい排水事業と共同事業により、老朽化した水道管改修および耐震化を進めており、令和12年度に事業を完了する予定です。



応急給水訓練の様子

下水道の災害対応

下水道事業業務継続計画に添い、災害時における機能の早期回復に全力で対応します。

●災害時の支援体制

水道支援事業体制と同様に、全国規模での支援体制になっています。

●災害時の協定

①全国上下水道コンサルタント協会北海道支部（技術支援協定）

②日本下水道管路管理業協会（復旧支援協定）

③地域環境資源センター（災害応援協定）

④漁港漁村総合研究所（災害支援協定）

⑤別海町建設業協会（応急措置協定）

●災害に備えての訓練

下水道に特化した訓練などは実施していないが、各処理場の自家発電設備の点検など、非常時に備えています。

●施設の耐震化

建設当初から、マンホールと塩ビ管の継手箇所には耐震性のある「可とう継手」を使用しています。

また平成9年以降に新設した下水道管については、さらに強度な耐震性を有しているため、被害を最小限に抑えることができるかと判断しています。

まとめ

今後、地下水（井戸）も対策に加えるべきとの意見もあり、委員会で議論を深めていきます。

議員定数等調査特別委員会／予算決算審査特別委員会

議会運営委員会

議会内において、広く意見を求め、多角的な視点から議会運営に係る事項を決定していくため、定数を現在の5人から8名に編成

今後の調査予定

令和6年12月には、中標津町議会の「議員報酬の増に係る立候補への影響」を調査するため視察を行いました。
令和7年は、いよいよ本丸の「議員定数と議員報酬」の調査を本格的にしていきたいと思います。

広報・広聴常任委員会

「町民の声を聴き、行政に投げかけ、結果を町民に還元する」ことが議員としての責務と捉え、議長を除く全議員で構成

【現在】

広報・広聴常任委員会 7名



広報・広聴常任委員会

全員

広聴小委員会
8名

広報小委員会
8名

常任委員会

議論を深めるため1委員会7名程度とし、2常任委員会に統合

【現在】

総務文教常任委員会 6名

福祉医療常任委員会 5名

産業建設常任委員会 5名



総務産業常任委員会 8名

福祉文教常任委員会 8名

議員定数等調査特別委員会

委員会構成の方向性を決定
～任期後半の令和7年3月から実行予定～

委員長 松原 政勝 副委員長 田村 秀男
委員 中村 忠士・今西 和雄・小椋 哲也・高橋 眞結美・吉田 和行・市川 聖母

予算決算審査特別委員会

白熱の議論を経て全会一致で
令和5年度各会計決算を認定

委員長 田村 秀男 副委員長 貞宗 拓雄

総括質疑と回答の概要

「適正な予算編成と効率的執行」

質疑 事業実施に当たっては、ふるさと応援基金が主な財源となりつつある。当該基金の活用方針を明確にし、各施策の推進に資する適正な運用を行っていただきたい。

回答 当該基金に依存しない財政基盤の確立のために、一定期間の実施が見込まれる事業については、必要額を別の基金に積み替えることで「財源の見える化」を図るなど、計画的な活用に向けていきます。

「地域おこし協力隊関連事業」
質疑 統括的に隊員の指揮指導を行えるような組織または体制づくりも視野に、より一層の創意工夫を図り、さらなる見える化に取り組んでいただきたい。

回答 協力隊の指揮、連携の円滑化を目指し、地域商社や中間支援組織の構築、団体派遣などの創意工夫について、令和7年度実施計画への反映に努めます。

令和6年度各会計補正予算を
全員賛成で可決

【主な補正内容】

〈歳入〉

● ふるさと応援寄附金50億円増額

● 企業版ふるさと応援寄附金2千万円新規

〈歳出〉

● 別海パイロツトスピリッツ運営事業補助金2千万円新規

● 町立別海病院事業会計負担金2億6千万円新規

● 秋サケ漁業持続化支援助成金7570万円増額



議員6人による一般質問

質問 住民公開型GISの導入構想は



たむらひでお
田村秀男議員

の作成や、その他の方法について検討を行っている。

近年デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、住民公開GISを導入する自治体も増えている。

先行して導入した自治体の運用状況や、住民の利用状況、また、導入に際しての課題や導入後の効果についても、実態調査を行い、得られた情報をもとに導入の可否および時期について判断をしたいと考えている。

質問 自治体のDX推進体制構築の「要」として、道路基盤地図をベースにした住民公開型GISを導入することで、リアルタイムな道路・災害情報などを提供することができるほか、観光マップ、ハザードマップ、公共施設・医療施設マップなど、各部署でさまざまな住民サービスが向上すると思うが、導入の見解は。

答弁 本町には、町内全域を網羅した道路基盤地図データがないことから、デジタル技術を活用した住民公開ができない状況にあり、現在、基盤となる道路基盤地図データ

質問 GIS導入に係る初期費用を懸念しているが、道路基盤地図データのための初期費用と除雪システムとしての維持管理費用は。

答弁 システムの構築と併せて、約3億円程度が必要で、除雪システムとしての年間維持管理費用は、300万円程度と考えている。

質問 (株)別海バイオガス発電の町への移譲はどうか？



なかむらただし
中村忠士議員

ることになっているが、その条件は何か。

答弁 計画どおり事業が進められ、財務も順調に推移し、設立以前に計画していた運営状況になっていることだ。

譲渡を受けることができないという判断になった場合には、譲渡しなくいいと考える。

公営住宅空き戸数が増加

質問 公営住宅の空き戸数の有効活用への考えは。

答弁 本来の入居対象者の入居を阻害しないなどの範囲内で目的外使用ができる。

西春別駅前の公営住宅で、移住促進のための「お試し住宅」やプロ野球球団「別海パイロットスピリッツ」の選手用住宅として活用することを考えている。

有効活用について、今後さらに検討していく。

質問 (株)別海バイオガス発電は9年間の累積赤字が8億4千万円になっている。

町は「見通しが甘かった」と言っているが、そこに出資することを決めた町の方針はどうだったのか。また、検証は行っているのか。

答弁 最初から甘い見通しで出資したわけではない。出資の判断に誤りはなかった。(株)別海バイオガス発電の検証結果を確認している中で、町が独自で行う考えはない。

質問 計画段階から見通しは甘く、町はその甘さを見抜けなかったただけだ。稼働15年後に町に移譲され



詳細はこちらからご覧になれます

議員6人による一般質問

質問 地域おこし協力隊のさらなる拡充と定住促進について



伊勢 徹 議員

質問 地域おこし協力隊員（以下「隊員」）を今後何名まで増やしたいと考えているか。

答弁 令和10年度時点での期間累計で、100名を指標として設定している。

質問 本町の令和5年度までの受け入れ隊員数と、任期終了後の定住人数は。

答弁 受け入れ隊員数は27名。そのうち任期を満了した方は4名で、うち1名が定住している。

質問 ガバメントハンターの採用に向けての計画案などは。

答弁 野生鳥獣対策強化のための隊員を、来年4月1日からの任用に向けて準備中。

質問 放牧酪農を希望する隊員を募集し、研修牧場などと連携して新規就農を目指せないか。

答弁 全ての農業形態を推進しており、放牧酪農に特化した募集をする考えはない。

質問 各隊員の活動理解のため話し合う機会を設けることが効果的と考えるが、所見は。

答弁 次年度に、住民と隊員が気軽に触れ合える場所として、「協力隊カフェ」などの拠点の整備・展開を検討中。

質問 一人でも多くの隊員に本町に定住してもらうために、今後どのような点に力を入れていく考えか。

答弁 ①個々の隊員に対する丁寧なフォローアップ。②私たちの地域社会を明るくする。③地域経済が循環する拠点の再生に取り組む。

質問 介護福祉士の人材確保体制をより充実に！



高橋 結美 議員

質問 介護職員確保対策事業において、介護福祉士受験料および旅費の補助に対応した直近5年間の人数は。

答弁 令和元年度から令和5年度にかけて計19名。

質問 介護福祉士国家試験の受験資格が、2017年から勤務経験に加えて、「実務者研修の受講・修了」が義務となった。

現在、釧路市か根室市で受講している状況だが、就労しながらでは負担が大きい。

受験に臨む人を増やすためにも、本町で実務者研修を実施できないか。

答弁 令和7年4月に養成

機関の主催により、本町で開催される予定。

一定の人数が必要となることから、ご本人のスキルアップの意向や、各事業所の計画的な介護従事者資格取得促進などの考え方を確認し、受講希望人数など開催要件の整備を図り判断をする。

質問 介護サービス事業所の安定的な人材確保や資質向上を図るため、受験料や旅費のみではなく、初任者研修と同様に実務者研修の研修受講料および旅費の補助も必要と考えるが。

答弁 働きながらも資格取得しやすい環境整備を含め、介護サービス事業所と連携し支援制度の協議を進めていく。





議員6人による一般質問

質問

水産業の将来的 振興策は万全か



みやこしまさと
宮越正人議員

質問

本町の主要魚種である秋サケとホタテ漁は、早急な対応が必要であり、水揚げ量が落ちている秋サケの資源量確保対策として、町長は今後どのような支援を行っているか。

答弁

サケの帰帰率を早期向上させる取り組みを継続して実施すること、根室管内さけ・ます増殖事業協会が安定的に資源増大に取り組んでいけるよう、漁業者の負担軽減を図りつつ、協会負担金に対する支援などを行っていききたい。

また、今までも秋サケ稚魚の2次飼育施設整備など、新たな取り組みに対し、積極的

な支援を実施している。

質問

実態としてホタテが足りてくるのかお聞きしたい。

答弁

ふるさと納税のホタテを返礼品とする量は、既に11月頃から足りていない状況。

現在は道内複数の産地から、種苗を購入し放流をしているが、今期のホタテ種苗生産が全道的に低迷していることから、来期以降、種苗の必要数確保について、懸念している。

部活動地域移行の後は

質問

教育委員会のアンケート調査の結果を受け、中学校部活動の今後の方策は。

答弁

町内全中学校生徒とその保護者および小中学校教員を対象に実施した結果を参考にし、来年度から休日の地域移行の試行を行うため、一部団体と調整を行っている。

質問

遠隔地に入院する 子どもの家族に支援拡充期待！



いちかわ まりあ
市川聖母議員

質問

別海町難病患者及び重度心身障害者等患者通院交通費助成規則を策定した目的は。

答弁

治療を受けるために医療機関への通院交通費の一部を助成することにより、経費負担の軽減と治療の効果を助長させること。

質問

この制度の申請件数は。

答弁

令和3年75件。令和4年64件。令和5年71件。令和6年現在57件。

質問

通院のための交通費助成でなく、面会のための交通費助成のような支援が必要だと思いが、見解は。

答弁

面会のための交通費助成については、基準をどのように定めるかが難しく、公平性の確保が困難であることから、実現は難しい。

質問

町長！ 別海町に住みつけながら、遠隔地で病と戦う子どもを持つ保護者のための明るい答弁を願います。

答弁

面会の確認をしなくても、月1回分支給するなど方法はある。
なるべく応えるような行政をすすめていきたい。

期待しています！



根室町村議会議長会研修

10月25日 羅臼小学校

管内4町の議会議員が集まる議長会主催の研修会が羅臼町で開催されました。

北海道町村議会議長会参与の勢簗^{せはたりやうぞう}了三氏から「議会が住民の代表機関であるために」というテーマでご講演をいただきました。

改革を迫られた2000年代の自治体の変遷を学び、それに対応する形で制定が進んでいる「議会基本条例」について状況を確認しました。

これらを踏まえた上で、現在の地方議会が抱える最大の危機である「議員のなり手不足問題」について、管内の統計情報を交えて解説を聞きました。

地方議会への関心のバロメーターとなる統一選の投票率は、全国的に低下の一途をたどっており、30年ほど前は90%を超えていた投票率は、

近年55%程度となっています。

管内平均では直近で67%と、全国平均ほどではないものの低水準となっており、早急な対策が求められています。

議員のなり手の発掘と育成を図る栗山町の「議員の学校」、浦幌町の「まちなかカフェED E議会」などの先進事例を学び、管内でも同様の取り組みが必要と強く感じました。

議会の意思決定とその過程を住民と情報共有し、住民からの声を幅広く聴く、広報と広聴の取り組みに、より一層注力しなければならぬと決意を新たにしました。



第7次別海町総合計画の変更を議決

別海町の行政運営の最上位計画であり、町民全体で共有する将来目標や施策が示され、町民や事業者、行政が行動するための基本的な指針となる別海町総合計画が変更されました。

総合計画は10年の長期的な計画で、今回は令和元年を初年度とする「第7次別海町総合計画」が対象となり、中間年による見直しを実施されました。

近年、進む人口減少や増加する大規模自然災害への対策、デジタル化をはじめとした技術革新、さらには新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした、新たな日常への対応など、本町を取り巻く大きな環境の変化に対応した見直しとなります。

また、国際的にも求められている「持続可能な開発目標

(SDGs)」との関連性の明確化も大きな変更となっています。

総合計画の見直しに関しては、総務文教常任委員会を中心として内容を調査してきましたが、9月に課題共有会議を開催し、議員全員からも集約した意見を行政に提出してきました。

その後、パブリックコメントが実施され、12月の定例会において賛成多数で議決されました。

議決に際し、基本目標として今回追加となった「自衛隊との共生」について、必要性の有無について討論が行われました。



SDGs 17色の葉っぱの木

シリーズ 町民に 聞きました

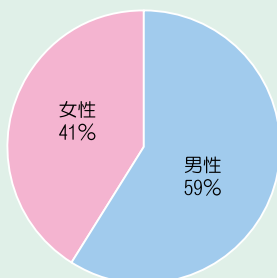
地域めぐり懇談会に大勢の参加ありがとうございました

今年は、西春別駅前・別海市街・中春別・尾岱沼の4地区で数々の貴重なご意見をいただきました。

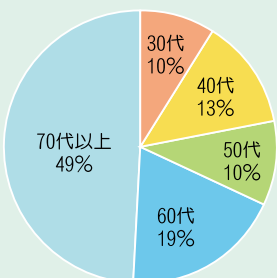
参加者アンケート調査の概要

実施場所	参加者数	アンケート回答数
11月25日 西公民館	17名	14名 (82%)
別海町交流館「ぶらと」	12名	12名 (100%)
11月27日 中春別ふれあいセンター	23名	21名 (91%)
尾岱沼地域センターきらくる	11名	9名 (82%)
合計	63名	56名 (89%)

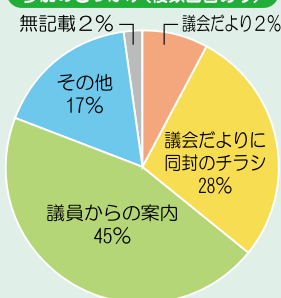
性別



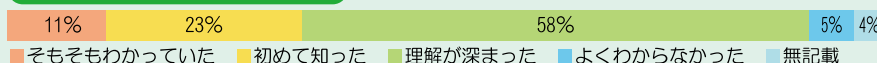
年代



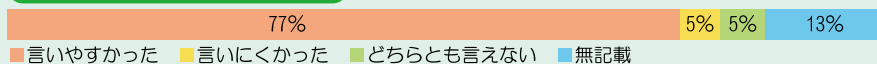
参加のきっかけ(複数回答あり)



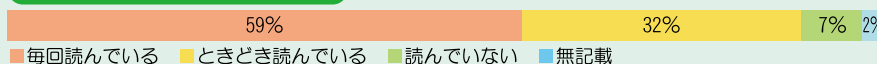
委員会活動について



意見交換について



議会だよりについて



議会だよりの改善について



議員定数について



議員報酬について



今後の意見交換の場について



参加者から寄せられた主な意見

- 今回の懇談会に出席して、議員さんの活動が、今まで以上によくわかった。
- 直接お話ができると、ダイレクトに伝わる感じもあってよかった。
- また参加します。
- 初めて参加しましたが、非常に有意義でした。
- 意見を聞いてくれるタイミング、チャンスがあるのはうれしい。
- 議員さんの説明が長すぎて、意見を出しづらい。
- もっと幅広い世代が参加できるような周知方法が必要。
- 誌面は読みやすくなっているが、初めて見る人は開いて読んでみようと思える表紙ではないかも。
- 議員定数と議員報酬は、多いのか、少ないのか、仕事量が目に見えないのでわかりません。
- 議員として活動する際の交通費などにも費用を負担するべきでは。
- 議員になりたいと思うような情報発信、時代に合った情報発信方法の選択(各種SNSや、LINEなど)。
- 別海病院小児科のネット予約、ネット呼び出しの早期実現。
- 子どもの少年団活動への助成を増やしてほしい。
- デマンドバスの500メートル制限は、ぜひ再考をお願いします。
- かゆいところに手が届く、産後ケア。
- 発達支援、病院に専門職を。
- 公民館の駐車場の街灯が暗い。

令和7年第1回定例会は
3月6日(木)～3月14日(金)
を予定しています



別海町議会
YouTube チャンネル



一般質問の傍聴にきてみませんか？

一般質問日 3月10日(月)・11日(火) 予定

議会の会議は、誰でも傍聴できますが、体調不良の方は傍聴をご遠慮いただく場合がありますのでご了承ください。



菌は外 マメにうがいと手洗い かぜ予防

